

普及活動情勢報告（平成28年7月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

さらなる収量・品質の向上を目指して・・・幡多地区環境制御技術成果発表会・・・	
	7月13日、幡多地区環境制御技術成果発表会を開催し、生産者14名、関係者19名が参加しました。 農業改良普及課は、促成キュウリ、抑制ミョウガをメインに幡多管内における炭酸ガス施用に関する実証成果を報告し、参加者からは「次回は自分が発表者として情報提供したい」との声がありました。 農業改良普及課は、今後も関係機関等と連携して、生産力向上につながる環境制御技術の普及・定着に向けて支援していきます。

産地を担う後継者の摘果技術向上のために・・・文旦摘果講習会を開催・・・	
	6月30日、宿毛市宇須々木で文旦栽培に取り組む若い後継者を対象に摘果講習会を行い、17名が参加しました。 農業改良普及課は、座学で基本的な摘果技術について講習した後、事前に設置した摘果実証樹で実技指導を行いました。 参加者からは、「今まで正確な着果数を意識して摘果することがなかったので、とても理解しやすかった。」との評価が得られ、摘果への理解を深めることができました。 農業改良普及課は、今後もこの摘果実証樹で果実数調査や果実肥大調査を継続して行い、生産者と共に増収・品質向上を目指していきます。

6次産業化の裾野拡大に向けて・・・6次産業入門講座を開催・・・	
	6月29日、中村合同庁舎で、6次産業化入門講座を開催し、農業者等31名が参加しました。 農業改良普及課からは、6次産業化普及活動推進事業の概要を説明し、（株）四万十ドラマ代表取締役畦地履正氏には、「四万十のあしもとにあるもの」と題して講演をしていただきました。 受講者からは、地域の農産物をお金に変える方法、プレゼン能力の高め方等多くの質問が出されました。また、四万十ドラマとのコラボに向けて、新たなきっかけができた生産者もいました。 農業改良普及課では、新たな活動の芽の育成と共に、農産物加工や6次産業化に取り組む農業者への支援を行います。

収量・品質の向上を目指して・・・三崎地区キュウリ反省会の開催・・・



7月4日、三崎支所園芸部の生産者13名が参加してキュウリ反省会を開催し、1年間の取り組みをふり振り返り、販売結果と今後の計画等について検討しました。

農業改良普及課からは、品種比較や炭酸ガス施用試験の結果、病虫害対策について情報提供しました。

生産者からは病虫害対策や天敵利用について質問が出されました。

農業改良普及課は、収量・品質向上のために環境制御技術の普及や病虫害対策の徹底に取り組めます。

ユズの新たな出荷体制構築のために・・・自動選果機運営検討会・・・



7月7日、三原村農業構造改善センターで、関係者11名が参加して、三原村が新たに導入した自動選果機の運営方法について検討しました。

農業改良普及課は、運営マニュアル作成の必要性やマニュアルの項目について説明・提案しました。その結果、参加者で運営マニュアルの必要性が確認され、各関係機関の代表者で作成することになりました。

農業改良普及課は、7月末を目処にマニュアルの試案を作成し、自動選果機の運営体制の整備に向けて支援を行います。

集落営農の活性化に向けて・・・四万十市集落営農研究会・・・



7月13日、四万十市役所で四万十市集落営農研究会を開催し、農家、関係機関職員20名が参加しました。

農業改良普及課からは、集落営農の進め方と鳥獣対策、集落活動センターとの連携について、市役所からは研究会の開催計画と集落営農にかかる課題について情報提供しました。

参加者からは「高齢化が進んで話し合いができない」、「基盤未整備の低湿地では農地を守るのが難しい」といった声が挙がり、地域の現状や課題についての率直な意見交換が行われました。また、農家から「集落での話し合いに参加してほしい」との意見もありました。

農業改良普及課では、今後も座談会を開催し関係機関と連携して組織設立に向けた支援を行っていきます。

トマトの安定供給・収量向上に向けて・・・ミディトマト反省会の開催・・・



7月20日、JA高知はた中村支所でよさこいミディトマト反省会を開催し、生産者7名が参加しました。

農業改良普及課は、青枯病対策となる高接ぎ木試験の結果報告と県内の炭酸ガス施用ほ場の事例について情報提供を、JAからは管内の販売概要の説明がありました。

参加者からは「安定供給に努めたい」、「炭酸ガス施用に併せて給液方法を改善したい」との声がありました。

農業改良普及課は、JA等関係機関と連携して病虫害対策、環境制御技術の普及・定着に向け支援していきます。